

合、他の親を批判するような表現にならないような配慮が必要なことは言うまでもありません。

ある生徒の親が、10歳になる自分の息子のダブルフォールト癖についてこんな事を言ってきたことがあります。「うちの子はトップスピンスーブを覚える必要があるんじゃないですか。」と。この親はエンジニアでしたので、「あなたは、微積分法を学ばずに微分方程式を理解できましたか。」答えは、「いいえ。」でした。そこで私は、「あなたのお子さんのサーブは、代数の勉強を始めたところなのです。ですから、微積分法はもとより、代数の知識ができないうちに微分方程式を解かせようとするのは無理なのではないですか。」と言いました。私はその子供にサーブを打たせてみました。70%の確率でサーブは入ったのです。これで、技術的なことが問題ではないと言う事がわかりました。普段の彼からすると、心理的要素が問題であると考えられました。主たる原因は、そのことを練習していたにもかかわらず、プレッシャーのかかった状況になると打ち急ぐという事が考えられました。親の意見に耳を傾け、彼にわかりやすい表現で説明し、実際には何が起こっていたのかを理解してもらうことができました。その親子はよく一緒に練習をしていたので、その子に、「練習中に君が焦っている様子をお父さんが感じたら、注意してもらうようにするけれども構わないかな。」と尋ね、「練習でも試合中でもプレッシャーを感じたら、少し時間をかけてプレーをすると良い。」ことも併せて伝えたのです。

インターネットの活用もコミュニケーションに役立ちます。試合の前になると、私の生徒の多くは試合の目標をメールしてきますし、試合後は、その目標の達成度についてメールしてきます。私は、彼らの親に対して、レッスンやクリニックの様子を報告します。メールの良い点の一つは、自分の好きなときに打てるし、電話と違って、要点だけを伝えることができることです。スケジュールの調整の連絡もメールでやりとりしますし、電話をかけるには遅い時間でもメールならば気にする必要はありません。生徒には、傷害の予防や、リハビリの方法、心理面、技術面、動き方、体力づくり、戦術等に関するウェブサイトを紹介しています。

我々テニスプロの最大の難関は、「難しい親」(私の仲間たちは「地獄からの使者」と言っていますが)です。こういった親は、自分の子供に最良なことを望んでいる事を前提に接するならば、何とか教育することを考えるべきです。親のこういった行動が、子供自身がプレーを楽しむことと能力を発揮することを阻害しているかもしれないことに気がついていないことが多いのです。7歳の子供がフォアハンドを失敗したと言っては叱り、試合に負けた子供に向かってわめき散らしてもしようがないことです。生徒も親も、「結果」ではなく「目標に向かう過程」を大切にすれば、プレッシャーも少なくなるし、試合の内容も良くなるものです。とは

いえ、聞く耳を持つ親とそうでない親はいます。極端な場合には、あなた自身現在の環境で継続することを望んでいないことをその親に伝え、苦渋の決断をしなければならないでしょう。

生徒を失うことは、収益減以上のものがあります。テニスプロとして、また、一人の人間として大切なのは評判の良さです。コミュニケーションを積極的に図るようになれば評判は上がり、生徒もついてきます。そうすると、プライベートレッスン・グループレッスン・クリニック・キャンプ等の照会も増え、ひいてはショップの売り上げや関連業務の売上げの向上に繋がるのです。

【著者略歴】デーブ・ヘイグラー： PTRプロフェッショナル。USAテニス・ハイパフォーマンス・プログラム修了。コミュニティー・カレッジとNCAAのヘッドコーチを歴任し、1996年にITA/USTAナショナル・コミュニティー・サービス・アワードを受賞。2002年にはUSTA地域コーチとして活動し、現在は、USTAの競技トレーニングセンターチームのコーチをしている。カリフォルニア州ロサンゼルス近郊の Whittler Narrows Tennis Center のヘッドプロを努め、全国や地域ランキングを持つジュニアの指導をしている。HEAD・PENNのアドバイザースタッフ、チーム・ヘッド、チーム・ルディーのメンバーでもある。

【翻訳・監修】 鈴木真一*PTRナショナルスター/ナショナルスター委員会委員/千葉県柏市 アド・イン桜テニススクール代表